

## 1 開会

(事務局)

令和元年度第3回大垣市図書館協議会を開催する。

## 2 あいさつ

(山本教育長)

大変お忙しい中、第3回大垣市図書館協議会にご出席いただいたことを、厚くお礼申し上げます。

## 3 議題(1) 令和2年度の事業計画について

(委員)

読書メーターの利用登録は誰が行い、読書記録はいつから蓄積されるのか。

(事務局)

利用者が自分で利用登録し、本人が記録したい本ごとに操作をすることで蓄積される。登録以前の履歴は記録されない。あくまで登録した以降の読書記録。

(委員)

個人情報である読書履歴はどのように守られるのか。また、機能の一つである「感想の共有」は他人から見られるが、どのような仕組みか。

(事務局)

今までどおり図書館には読書履歴は残らない。各個人が読書メーターで管理する。ログインは、メールアドレスとパスワードでセキュリティ対策がされている。

読書履歴を記録するページと、「感想の共有」など他人から見られる共通ページに分かれている。

(委員)

セキュリティは守られていることがわかった。システム導入費用と他市の事例は。

(事務局)

図書館側のシステムと読書メーターを連携するため、改修費として10万円を予算計上している。

コンテンツ事業者や日本図書館協会、全国公共図書館協議会へ確認したが、公立図書館との連携事例はない。

### 3 議題(2) 大垣市教育振興基本計画（図書館活用分野）について

(委員)

なによりも利用者の意見が一番重要である。多くの人に書いてもらうため、利用者アンケートはどのように行うのか。

(事務局)

図書館窓口での貸出しの時や学習室の利用者へ手渡しする。また、配本サービス利用者へも本と一緒に送る。

(委員)

図書館を利用しない人からも意見を聞く機会はあるのか。

(事務局)

教育委員会が年1回市民に対し「教育に関する市民アンケート調査」を行っている。その中の図書館分野において、図書館利用の有無に関する設問がある。

結果は、教育委員会は市のホームページで、図書館は図書館のホームページで公開している。

(委員)

図書館を利用していない人が、読書記録Webサービスなどの利用により足を運ぶきっかけになるとよい

### 3 議題(3) 大垣市子どもの読書活動推進方針（案）について

(委員)

最近の図書館は展示物が多く、行けば楽しい。ただ、足を運ばないとわからない。「おはなし会」のように、毎回内容を変えて、子どもたちが足を運ぶきっかけを何かできないか。

(委員)

読書意識が高い人は自らホームページを見るが、そうでない人は見ない。いろいろなきっかけが必要ではないか。

(委員)

保護者が集まる行事などへ出かけてPRすることも大事である。「図書館だより」を読んだら、図書館の活動がよくわかる。

(委員)

今回実施した墨俣つりびなの展示など、地域に根差した展示は来館者の増加につながる。

(委員)

今年度、図書館が墨俣小学校と連携した事業を行ったが、図書館のPRにつながっているのか。

(事務局)

大いにつながっている。図書館と学校の読書手帳を共通にしたことで、親子ともに図書館へ行く機会が増え、読書量も増えた。

#### 4 報告(1) 令和2年度図書館利用者アンケート調査について

(質疑なし)

#### 4 報告(2) 図書館の臨時休館について

(委員)

臨時休館中の一部サービス利用状況はどうか。

(事務局)

閲覧はできないが、返却や予約図書の受け取りに、普段の3分の1ほどが利用されている。

(事務局)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、県図書館をはじめ公共図書館の多くは臨時休館して一部サービスを提供している。

(委員)

今後、イベント等の開催見通しはどうか。

(事務局)

国全体の感染拡大状況は収まる気配をみせていない。国はイベント等の自粛を継続するのではないか。

本市の状況は落ち着いているが、感染リスクは依然としてあるので、大きく改善される環境ではない。

ただ、市としては、家にいる子どもたちの状況を考えて、やれることの検討を進めている。

(委員)

本が好きな人は図書館のホームページを見るし、利用する。子どもの本離れが進んでいるのは大きな懸念材料であり、本を読まない子どもを図書館へどのようにして惹きつけるのかが課題である。

子どもの年齢に応じて読書活動推進のサービスを切れ目なく提供すると、継続して本を読み、好きになってくれるのではないか。

(委員)

アメリカの統計では、読書量に比例して成績も高くなる傾向がある。

突然の休校要請で、学校は本を貸出せなかったと思うが、この休みに本に触れてほしい。

## 5 その他 墨俣小学校との連携

(河合教諭)

- ・読書手帳の共通化により、貸出冊数の増加につながり読書意欲が向上した。
- ・図書館の展示や企画を取り入れ、校長室も使った図書館活動を実施した。
- ・墨俣図書館での利用指導や館内紹介で、利用が増え読書冊数が増加した。
- ・郷土の絵本作家の作品を魅力的に展示することにより、関心・興味が増した。

(西田校長)

連携の成果として、学校でも読書環境・活動の創意工夫を実践していきたい。

今回の休校直前に、職員提案により生徒へ2冊ずつ本を貸出した。読書の大切さが教員にも浸透した表れである。

(委員)

墨俣小学校だけではなく、市内小学校へ連携事業を広めてほしい。

その他 墨俣図書館の見学

閉会 15:15